

4. 2 講義・実習科目シラバス(平成24～25年度)

科目名：自然災害科学概論(2013/3/9)

担当教員名：牛山 素行

専門分野：自然災害科学，災害情報学，豪雨災害

授業内容：

本講座の導入科目として，ガイダンス的内容の講義を行った上で，自然災害の基本的な構造，災害科学に関する重要なキーワードに関して概論的に論ずる．主な内容は以下の通り．

- ・ふじのくに防災フェロー養成講座が目指すもの
- ・受講者の自己紹介
- ・自然災害の基礎構造
- ・「避難」の考え方
- ・災害に関わる「データ」を読む

受講要件：特になし．

科目名：統計学演習(2013/3/16)

担当教員名：村越 真

専門分野：認知心理学

授業内容：質問紙の作成を中心にして、基礎的な統計法（t検定、 χ^2 二乗検定、分散分析、相関）などを、実習を交えて学びます。

受講要件：エクセルが使えること

科目名：地震計測実習(2013/3/30)

担当教員名：林 能成

専門分野：地震学・地震防災

授業内容：

地震によるゆれは、浅部地盤の違いに大きく左右される。静岡県下では、たとえば1944年東南海地震の際に袋井の大田川流域に被害が集中したことが知られているし、1854年安政東海地震の際には清水の江尻地区の被害が周囲の集落にくらべて極端に大きかったことが知られている。この演習では静岡大学周辺をフィールドとして平常時の微弱な地震動（常時微動）の計測を数班にわかれて行い、その後のパソコンを使ったデータ解析を通じて地盤による振動特性の違いをまなぶ。具体的にはH/V法によって固有周期と地盤増幅率を求める。

受講要件：屋外での地震観測を実施するので、歩きやすい靴や服でくること。

エクセルをインストールしたPCを持参することが望ましい。

科目名：水理学(2013/4/6)

担当教員名：林 拙郎

専門分野：水災害，洪水流，津波災害，豪雨災害，溶岩流

授業内容：

水災害の基本は，水が生活域を流れることによって発生する。水は，空気とともに人間生活に密接な関連をもつ粘性流体でもある。ここでは，水がもつ性質を静止状態から流れる状態まで基本事項を順次解説する。

1. 静水圧：水の単位と次元，水圧，全水圧と作用点
2. 理想流体の流れ：流線，流量，連続式，ベルヌーイの定理とその応用
3. 粘性流体の流れ：ニュートンの粘性の法則，円管内の層流，層流から乱流へ
4. 開水路（河川）の流れ：常流・射流・限界流，対応水深，跳水等
5. 等流の平均流速公式：エネルギー損失と各種の勾配，摩擦損失水頭，水路床の剪断（摩擦）応力，平均流速公式，流量と水深の実用計算

受講要件：受講時，必要な資料は配付する。

科目名：災害社会学(2013/4/27)

担当教員名：矢守 克也

専門分野：防災心理学，社会心理学，災害社会学，防災教育学

授業内容：

人間・社会科学の立場から防災・減災研究と実践について概説する。特に，地域防災力の向上や学校等における防災教育について，実際の手法に関する実習も交えながら詳しく論じる。主な内容は以下の通り。

- ・防災・減災に関する人間・社会科学的研究の基本的立場の解説
- ・「地域防災力」，「自助・共助・公助」といった基本用語の批判的検討
- ・防災教育に関連する手法やツールの紹介と実習
- ・災害情報に関する基礎概念（正常化の偏見など）に関する批判的検討

受講要件：特になし。

科目名：気候学(2013/5/18)

担当教員名：岩崎 一孝

専門分野：気候学，自然地理学，地理情報システム

授業内容：

日本の気候の特徴を、世界的視野から解説するとともに、気象データ解析の基礎について、講義と実習を行う。

- ・世界の風系（大気大循環、気団、前線）

- ・日本の気候の特徴（特にマクロスケールからの視点を中心として）
- ・気象データの入手（日本のデータ、世界のデータ）
- ・気象データ解析の基礎
- ・気象データ解析実習（気象庁のデータを使って）

受講要件：MS-Office をインストールしたノートパソコンを持参できること。

科目名：リスク論(2013/6/1)

担当教員名：鈴木 清史

専門分野：文化人類学

授業内容：

本授業では、文化人類学の視点から災害やリスクを考える。特に、人びとが、これまで災害やリスクにどのように対応して生活を営んできたのか、また被災後どのような意識を持ったのかなどについて事例を通して紹介する。そして、災害に強い個人、生活、共同体とはどのようなものかを考えるきっかけとしたい。

以下のようなテーマを取り上げる予定。

- 1) リスク・災害(対するものとして、安心・安全)
- 2) 災害の可能性やリスクをどう伝えるのか。
- 3) 実際の現場で何ができるのか。
- 4) 自助力の向上とは。
- 5) まとめ

受講要件：とくにありません。本演習は文化・社会科学系の領域になることをあらかじめご承知おき願います。

科目名：河川工学(2013/6/15)

担当教員名：風間 聡

専門分野：水文学，河川工学，水資源学

授業内容：

洪水対策（治水）の概要を学ぶため、洪水の発生機構，問題点，治水の基本的な取り組みや歴史を学ぶ。主な内容は以下の通り。

- ・水循環と水文過程
- ・降雨－流出過程とモデリング
- ・河川構造物，堤防，護岸，水制
- ・治水の歴史と環境問題
- ・リターンピリオド

受講要件：身近な川をじっくりと見ておくこと。

科目名：火山学(2013/6/29)

担当教員名：小山 真人・鶴川 元雄

専門分野：火山学，地質学，地球物理学，火山防災

授業内容：火山学の最近のめざましい発展は，過去の噴火の推移・様相を解き明かすとともに，現在活動する火山の内部構造・内部過程を探り，将来の活動をある程度予測することを可能とした．この講義では，とくに静岡県活火山である富士山を題材として，現代火山学の最新の知見を豊富なスライド・ビデオ資料を利用して学ぶと共に，火山防災の基礎知識をも身につけることを目的とする．主な内容は以下の通り：火山とプレートテクトニクス，マグマの発生と上昇，火山の種類と地形，噴火現象・噴出物，噴火災害とハザードマップ，火山の観測，火山の物理過程，噴火予知．なお、授業の最後に総まとめとして簡易型の図上演習を実施する予定．

受講要件：特になし

科目名：地震工学(2013/7/13)

担当教員名：秦 康範

専門分野：社会システム工学，安全システム

授業内容：

本講義では，地表面の揺れの強さはどのような要因によって決定されるのか，建物の揺れ方はどのように決定されるのか，過去の地震被害と災害の進化，地震被害想定の手法とその精度，について学ぶ．演習では，①建物の揺れ方について小型振動台を用いた振動実験で建物の揺れ方を確認する，②簡易型地震被害想定システムを用いて様々な地震を想定した被害を予測してみる，ことを実施する．主な内容としては以下を予定している．

- ・地震動の伝播と増幅（震源効果，伝播効果，サイト効果）など地震工学の基礎
- ・建物の揺れ方（地震動の周期特性と建物の揺れやすさの周期特性）と対策
- ・地震による社会基盤施設の被害，二次被害（火災，道路など）
- ・地震被害想定

受講要件：Windows ノートパソコンを持参する．

科目名：強震動・地震災害史(2013/7/20)

担当教員名：武村 雅之

専門分野：地震学

授業内容：

2011年3月11日の東日本大震災を受けて、地震災害史の重要性が指摘されている。東日本大震災と関東大震災を通じて、災害史の立場から、津波想定に何が欠けていたかと我が国の地震防災の出発点で何があったかを解説する。さらに後者に関して我が国の耐震設計

における地震外力の歴史について解説する。強震動予測がある程度出来るようになった現在でもその設定の悩みは尽きない。その上で単に科学技術を信奉するだけでは解決できない地震防災の課題を議論したい。主な内容は以下の通り

第1部 災害史から学ぶ

その1 2011 東日本大震災 : 津波想定に欠けていたものは何か?

その2 1923 関東大震災 : あの時の教訓の上に今がある

第2部 強震動と地震荷重

その1 強震動理解の基礎

その2 地震荷重の考え方と歴史

課題は、「郷土に残る災害の跡探し」レポート

受講要件：武村著『地震と防災』中公新書（2008）（定価 760 円）を読むことが望ましい。

科目名：地震学(2013/8/3)

担当教員名：笠原 順三

専門分野：地震学、地震探査、地球物理学、地球科学全般、海洋工学

授業内容：

- プレート沈み込みと地震発生
- 地下における水と地震の関係
- プレート間地震、プレート内地震、浅発地震、深発地震、スラブ内地震
- 断層と地震メカニズム
- 前震、本震、余震、群発地震、
- 火山現象と地震、地震と津波
- 地殻変動～ゆっくり地震～巨大地震～破壊現象
- いろいろな地震波：P波、S波、表面波、T相
- 地下構造と地震波の伝わり方
- 地震動、流動化現象、建物の揺れ型の特徴
- 想定東海地震と被害予測
- 地震学と資源開発

受講要件：特になし。

科目名：地球化学(2013/8/10)

担当教員名：野津 憲治

専門分野：地震化学、火山化学

授業内容：

地震現象や火山噴火現象を化学的な視野を中心に解説し、化学的な前兆現象の評価の仕方、活動監視のための化学的な観測、防災減災との関連を述べる。事例としては、静岡県で災

害が懸念される地震や火山をできるだけ取り上げ、静岡県の防災に役立つような内容を扱う。また講義内容に関連した受講者間のミーティングの形式を取り入れ、授業の最後にレポート課題をその場で書いて提出する。

講義は以下の内容をカバーする。

- 1) 地震活動に関連した地下水の前兆現象、地球化学的観測
- 2) 活断層の活動評価と地球化学的観測
- 3) 火山活動、噴火現象と火山ガスの化学、火山ガス災害
- 4) 火山噴火活動の地球化学的な観測

ただし、このシラバスを提出したあとで、大きな地震災害や噴火災害に伴う現象が起きた時は、優先的にその現象を取り上げる。

受講要件：特になし

科目名：治山砂防工学(2013/8/24)

担当教員名：林 拙郎

専門分野：土砂災害，豪雨災害，地震災害，土石流，保全砂防学

自然荒廃，自然災害の発生形態を解説し，その主要因，火山・地震・豪雨からいかに山地荒廃や土砂災害が発生するかを斜面，流域の視点から解説する。

授業内容：

1. 自然環境の荒廃形態：自然荒廃の特徴，各種の荒廃形態（火山の影響・煙害地・山崩れ・地すべり等）の概要
2. 山地災害と自然災害：地震性崩壊，崩壊発生メカニズム，くさび形・折線状・円弧状等の崩壊，崩壊物質の移動到達距離
3. 豪雨と土砂災害：降雨特性と豪雨災害，降雨強度，日雨量の超過確率，日雨量と崩壊面積率，豪雨指数，降雨-浸透-流出過程，タンクモデル
4. 土石流と溪流保全構造物：土石流の特徴・発生形態・発生条件，荒廃流域の形態区分と土砂流出，溪流保全と保全構造物
5. 豪雨災害の予測：タンクモデルによる災害発生予測，実効雨量法，土壌雨量指数，降雨による土石流の発生限界，累加雨量と土砂災害の発生・非発生

受講要件：「林拙郎：保全砂防学入門，電気書院，2008」を使用。図書館等で用意のこと。

科目名：建築防災学(2013/9/7)

担当教員名：佐藤 健

専門分野：建築構造工学，地震工学，自然災害科学

授業内容：

地震の揺れと建物の被害との関係について，構造部材，非構造部材，室内空間などに着目し，耐震基準の変遷と対応させながら概論的に論ずる。東日本大震災の学校施設を中心

とした被災状況とその教訓についても論じる。主な内容は以下の通り。

- ・建物被害と室内被害
- ・建物の耐震基準
- ・建物の振動特性
- ・事業継続計画（BCP）
- ・地震災害時の負傷要因とその予防
- ・東日本大震災の教訓と防災教育

受講要件：特になし

科目名：社会調査演習(2013/9/21)

担当教員名：柄谷 友香

専門分野：都市防災計画、土木計画

授業内容：

行政や地域における災害対応や対策を講じる際に、過去の災害現場対応に学ぶべき点は多い。この演習では、最近の災害事例を対象として、災害対策本部や避難所運営、生活再建に果たす地域の役割など各災害対応フェーズにおける対応実態を記録・整理し、今後の防災対策に向けた教訓を抽出する方法を学ぶ。主な内容は以下の通りである。

- ・災害対応を把握するための社会調査と実践
- ・災害対応記録を教材とした知識や知恵の抽出
- ・災害対応能力の養成に向けた総合討論

受講要件：特になし。

科目名：地理学演習(2013/10/5)

担当教員名：近藤 昭彦

専門分野：地理学、水文学

授業内容：

災害(ディザスター)は人と自然の関わりが希薄になった時および場所で発生しやすい。自然現象でもある豪雨や地震などのハザードをディザスターにしないためには、素因となる地域の自然、特に地形の成り立ちを良く理解しておく必要がある。そこで、この演習では地形学および水文学の成果に基づき、地表面の形態的特徴から、それを作ったプロセスの理解を試みる。そのプロセスは自然現象であるが、人が関われば災害になるからである。河川地形、海岸地形、山地地形（地すべり、崩壊、土石流）、および人工地形を対象として、その成り立ち、性質および人の暮らしとの関わりについて事例を通して解説する。演習の際には、空中写真および地形図の簡単な判読を併用して理解を深める。

受講要件：画像判読のためにラップトップ PC を持参することが望ましい。

科目名：津波工学(2013/10/19)

担当教員名：原田 賢治

専門分野：津波工学，津波防災，海岸工学，水工学

授業内容：

災害対策を担う人材の基本的要件として災害に関する科学的基礎知識の理解・修得は不可欠である。本講義では、津波災害を対象としてその発生メカニズムや災害としての特徴、津波防災対策について科学的基礎知識を基に理解する事を目的とする。主な内容としては、以下の様な内容を予定している。

- ・ 物理現象としての津波
- ・ 津波による災害
- ・ 津波防災対策技術の概説

受講要件：特になし

科目名：地質学演習(2013/11/9)

担当教員名：狩野 謙一

専門分野：地質学，地質図学，地質調査法

授業内容：地域の地盤についての情報源であり防災とも密接に関連している地質図について、その基礎，原理，作成法，利用法などについて学ぶ。主な内容は以下のとおり。

- ・ 地質学の基礎と地質図
- ・ 日本列島の地質・地形の特徴と自然災害
- ・ 地質図と何か(その基礎，原理，実例)
- ・ 地質図の作成法(地質調査と地質図学の基礎)：大学構内での簡単な野外実習を含む
- ・ 各種地質図とその利用(特に防災・自然環境との関係)

受講要件：定規(長さ 20cm 程度)，三角定規，分度器，鉛筆(ボールペン不可)，消しゴムを持参すること。

科目名：防災気象学(2013/11/23)

担当名：(気象庁専門家)

専門分野：防災気象、レーダー気象、防災気象情報全般

授業内容：気象災害に関わる気象情報の仕組み、精度、利用方法などについて解説する。

・ 気象災害(洪水害、浸水害、風害、落雷害)をもたらす気象現象(集中豪雨、竜巻、高潮)の解説とその予測精度

- ・ 気象災害に関わる警報・注意報・気象情報の体系と概要
- ・ 大雨と洪水の警報・注意報の基準設定方法
- ・ 警報発表から災害発生までの猶予時間と気象情報の利用方法

・台風情報の概要と利用方法

受講要件：なし

科目名：防災法制度(2013/12/7)

担当教員名：中川 和之

専門分野：災害報道、市民防災、災害救援

授業内容：

災害被害の軽減や未然防止、災害時の対応の根拠となる災害対策基本法を中心に、災害救助法や被災者生活再建支援法、建築基準法、耐震改修促進法、宅地造成等規制法、水防法、砂防法、気象業務法、土砂災害防止法、激甚災害法などについて、成立や改正の経緯、今後の方向を解説。自治体による災害対策のための条例の事例についても紹介する。特に、行政として単独で行える実務運用よりも、住民や事業者などとの関わりが重要になる点について、その法的根拠と望ましい実務のあり方を、行政側、住民・事業者側の双方の視点で考え、実践的に運用できる力を養う。以下を重点的に考える。

・関東大震災や伊勢湾台風、阪神・淡路大震災という大規模災害が法体系に与えている影響を理解し、東日本大震災を踏まえた法制度の改正の動きについても政府の専門調査会「防災対策推進検討会議」の報告などを踏まえて今後の法体系の方向を把握。近年行われてきた減災の視点での法改正と、そのために必要な現場での取り組み事例や望ましい方策を考える。

・大規模地震対策特別措置法や地震防災対策特別措置法、地震調査研究推進本部の地震の長期予測と東南海・南海や日本海溝・千島海溝の各地震の特別措置法、地震対策大綱、減災目標を定めた地震防災戦略、応急対策活動要領という、近年確立した地震対策の法的枠組みの流れと、それを支える被害想定的高度化と限界を知る。

・近年のほとんどの災害で「特例基準」での運用を行っている災害救助法の事例について詳細を学び、災害時の望ましい法運用への姿勢を身につける。

・法に基づいて自治体で作られる地域防災計画について、特に被災経験に基づいた改正を行った自治体の事例を取り上げて分析し、自らの地域の計画やマニュアルをどのように見直す必要があるのかを検討する。

・実際の災害対応を行った自治体職員の経験から、法と現実の狭間で何をなすべきかの姿勢を学ぶ。

・事前課題で、受講生が関係する市町村の地域防災計画を、自らの身に引きつけて読み込んでもらいます。

受講要件：特になし

科目名：地域調査演習(2013/12/21)

担当教員名：牛山 素行

専門分野：自然災害科学，災害情報学，豪雨災害

授業内容：

地域の災害に関わる調査研究や，住民参加型防災ワークショップの企画などに際しては，対象地域の自然・社会的な性質を把握することがまず重要である．この演習では，全国的に整備されている情報を活用して，特定地域の災害・防災に関わる「地域の概要」（簡単な地誌）を作成する方法を学ぶ．主な内容としては以下を予定している．

- ・対象地域の概要・社会条件についての調査(略図の作成，地域略史，人口概要)
- ・対象地域の自然条件についての調査(地形，気象，河川)
- ・対象地域の自然災害に関する調査(過去の災害記録，ハザードマップ的情報，被害想定)
- ・現地での調査(地形図の活用と注意事項，現地踏査)

受講要件：テキストとして，「防災に役立つ地域の調べ方講座」（牛山素行著，古今書院刊，税別¥2200）を指定するので，同書を購入することが望ましい．
